



野川河床整備に関する川づくり説明会

平成29年9月27日（水）

東京都第二建設事務所

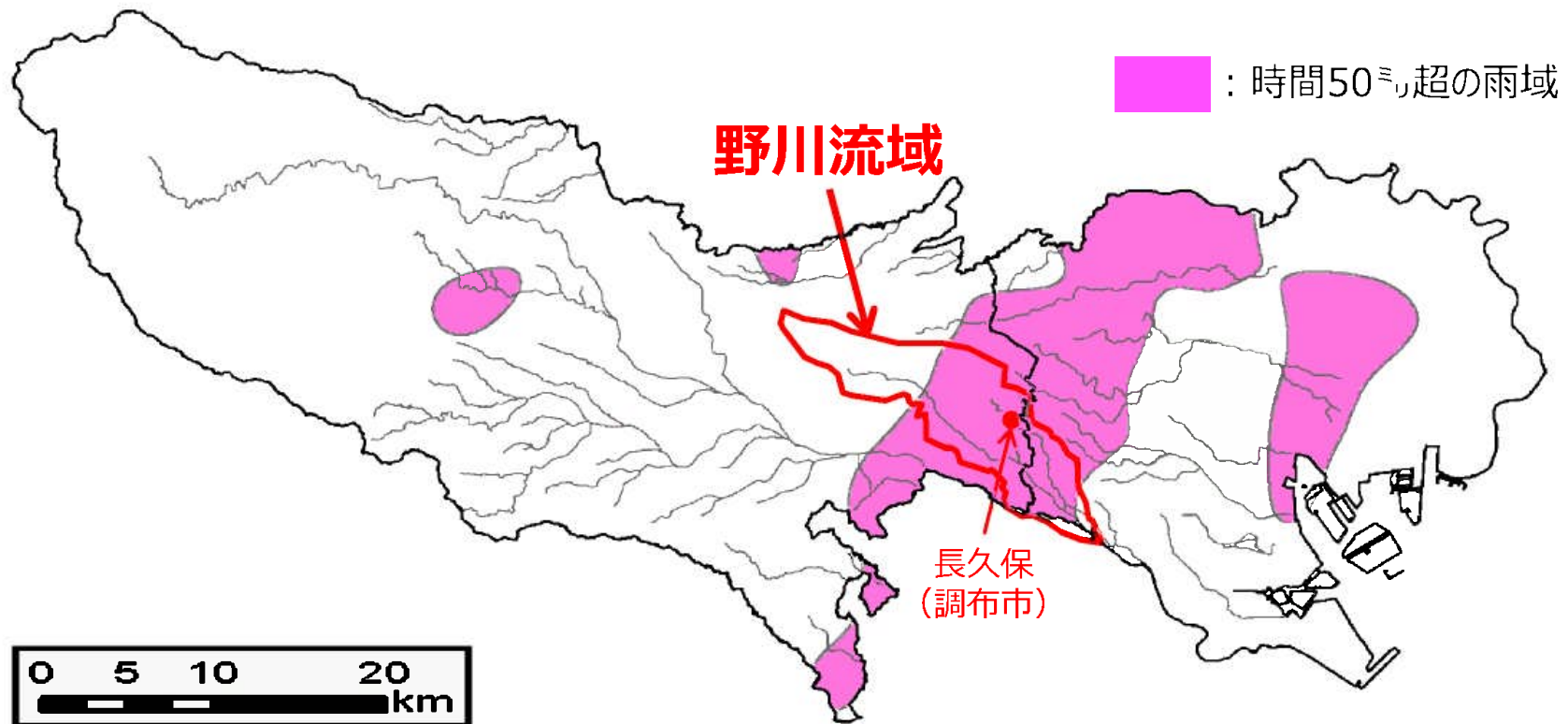
野川の整備状況



野川流域における近年の豪雨の発生状況

【平成17年9月豪雨】（9月4日～5日）

- ・都内各所で時間最大100㎜以上の豪雨【野川流域最大雨量109㎜/hr(長久保)】
- ・妙正寺川や善福寺川、野川など8河川で溢水
- ・都内全域で浸水家屋5,846戸の被害が発生

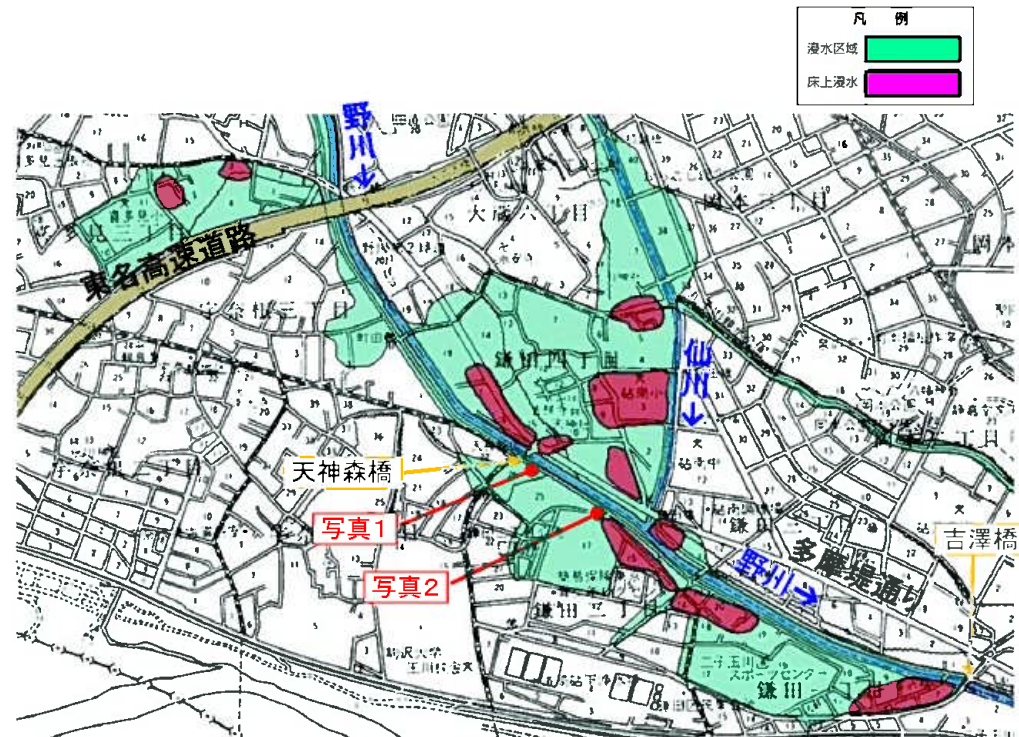


1時間最大雨量が50㎜を超えた雨域

野川流域における水害の状況

【平成17年9月豪雨】

- ・総雨量 : 144 ミリ (流域平均)
- ・時間最大雨量 : 109 ミリ/hr (長久保(調布市))
- ・浸水家屋数 : 437 棟 (仙川・入間川含む)



野川天神森橋付近（世田谷区内）の水害状況

下流部の浸水被害状況図

降雨状況の変化に対応した新たな整備方針

中小河川における都の整備方針（平成24年11月）

東京都豪雨対策基本方針（平成26年6月）

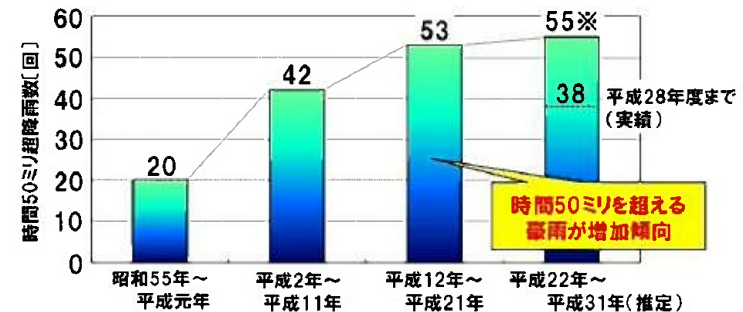
〔目標〕

目標整備水準

時間最大50ミリ降雨



時間最大65ミリ降雨（多摩部）



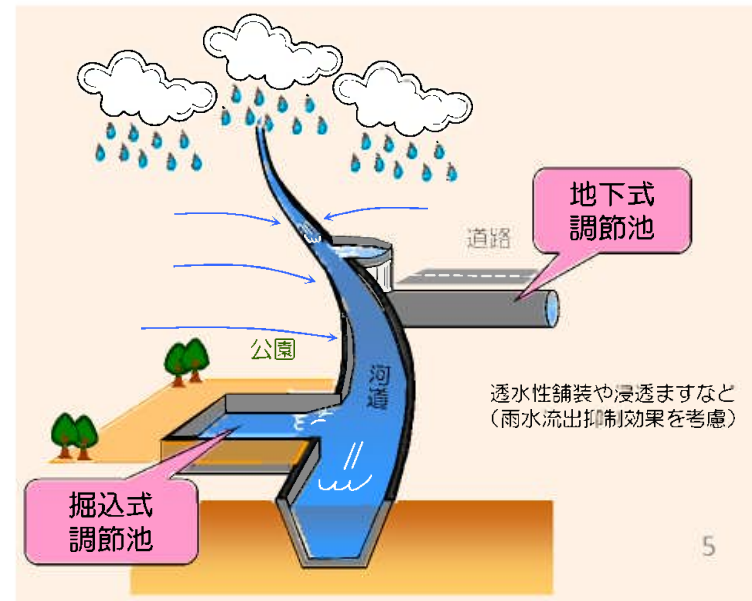
※平成31年度まで降雨数は、28年までのデータを基に推定(5.4回/年)

〔対策を強化する流域〕

甚大な浸水被害が発生している流域
（神田川流域、石神井川流域、
野川流域、境川流域など9流域）

〔具体的な対策〕

- ・道路下や公園等の公共空間を活用した新たな**調節池の整備**など



野川流域河川整備計画の変更

野川流域河川整備計画（平成29年7月変更認可）

【河川整備計画】

- 計画期間は約30年
- 河川整備の目標を示し、具体的な河川の整備の内容を明らかにする
- 野川、仙川、入間川の3河川が対象

【主な整備事項】

■ 第3章 河川整備計画の目標に関する事項

<洪水対策>

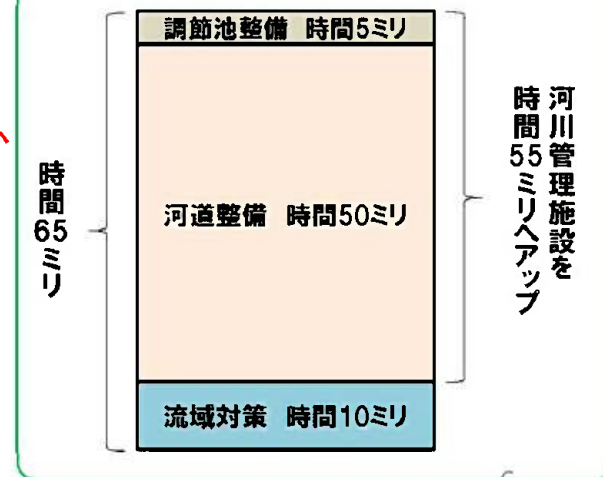
- 河川への流出を抑制する流域対策と組み合わせて、1時間あたり65ミリ規模の降雨に対応
- 1時間あたり50ミリ規模の降雨に対応できる河道に加え、洪水を貯める調節池を整備

<河川環境>

- 親水空間の創出、周辺景観との調和、湧水の保全、生態系の連続性の確保（瀬や淵の形成）など
- 治水上支障の無い範囲での樹木の保全

○目標整備水準65ミリ(多摩部)

の役割分担



小田急線～谷戸橋間についての現状（治水面）

- 時間50ミリの降雨に対応する護岸は整備済
→河道の拡大により、時間50ミリの降雨に対する流下能力を確保
- 下流域に比べ、緩傾斜護岸（右岸）整備により現況断面が大きい
- 確保する断面も下流域に比べ小規模な対応で可能



撮影日：平成27年7月24日

安全な流下能力の確保は必須

小田急線～谷戸橋間についての現状（環境面）



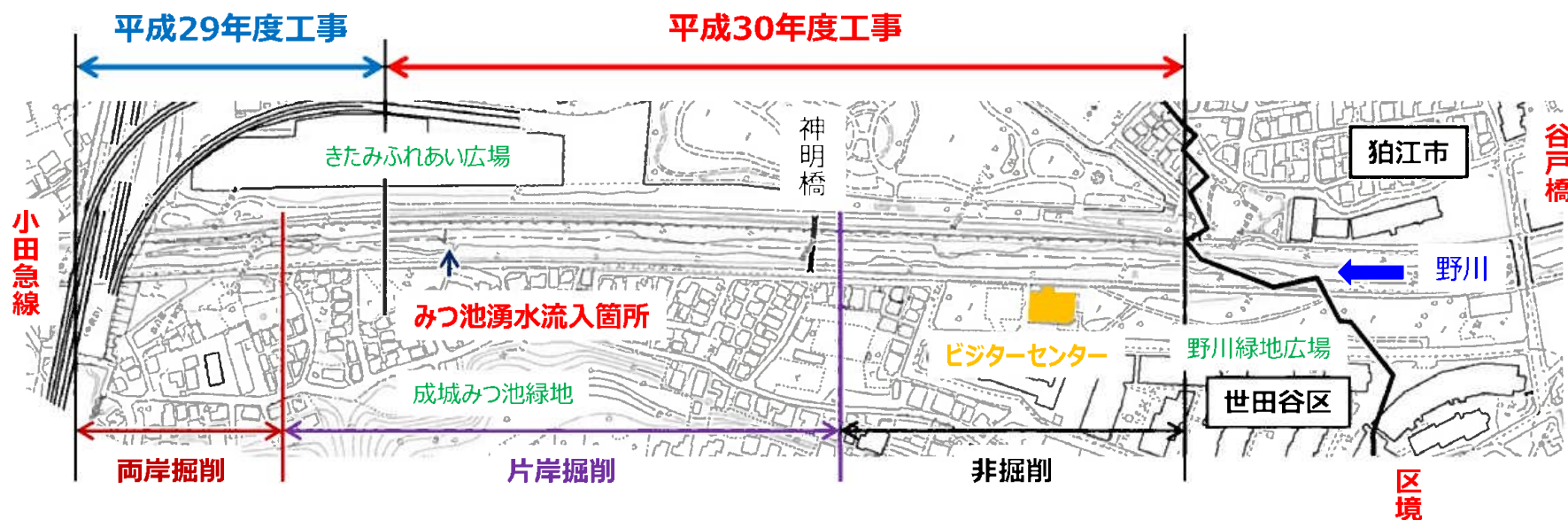
整備方針

【工事予定区間】

- ・ 平成29年度工事：小田急線～みつ池湧水流入箇所付近
- ・ 平成30年度工事：みつ池湧水流入箇所付近～谷戸橋間（区境）

【河床掘削方法】

- ・ 洪水流下断面の確保とともに自然環境の保全を図るため、
両岸掘削、片岸掘削、非掘削区間を設定



整備方針

整備の基本的な考え方

○安全な流下能力の確保

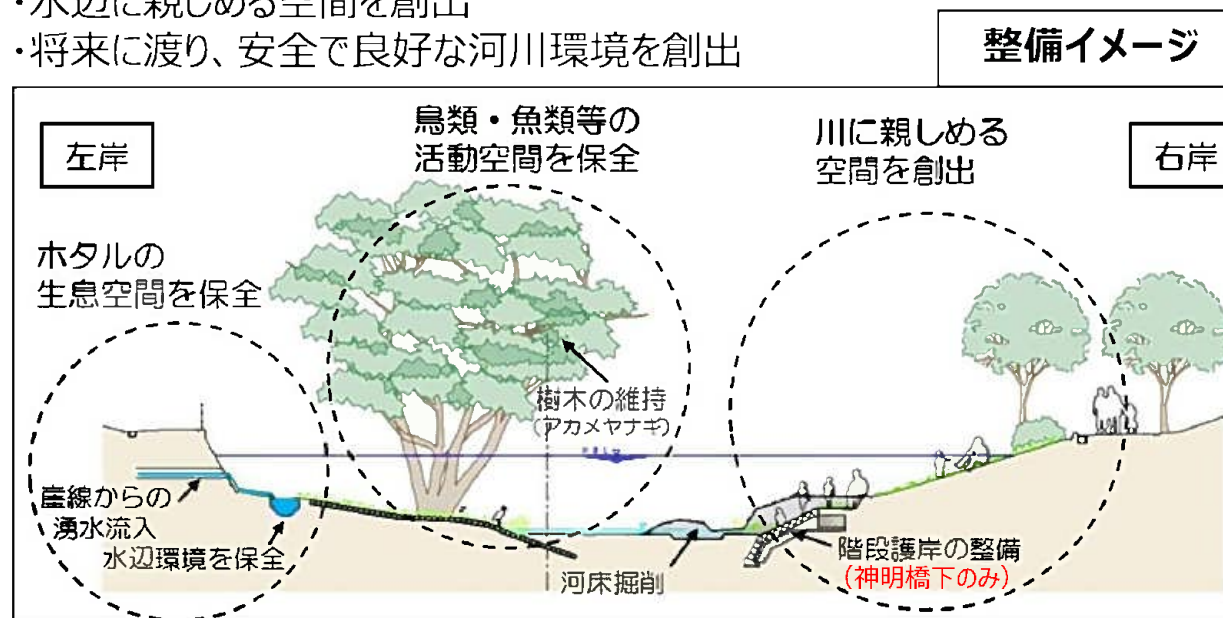
- ・将来に渡って、時間50^分降雨の洪水を安全に流下可能な断面の確保
- ・必要最小限の改変（河床掘削等）
- ・洪水流下に著しく支障となる樹木等は撤去

○良好な自然空間の保全

- ・みお筋等の地形は平行移動し、環境を復元
- ・希少生物等の生息域を可能な限り保全
- ・治水上存置可能な樹木は、健全性や環境価値を考慮し保全

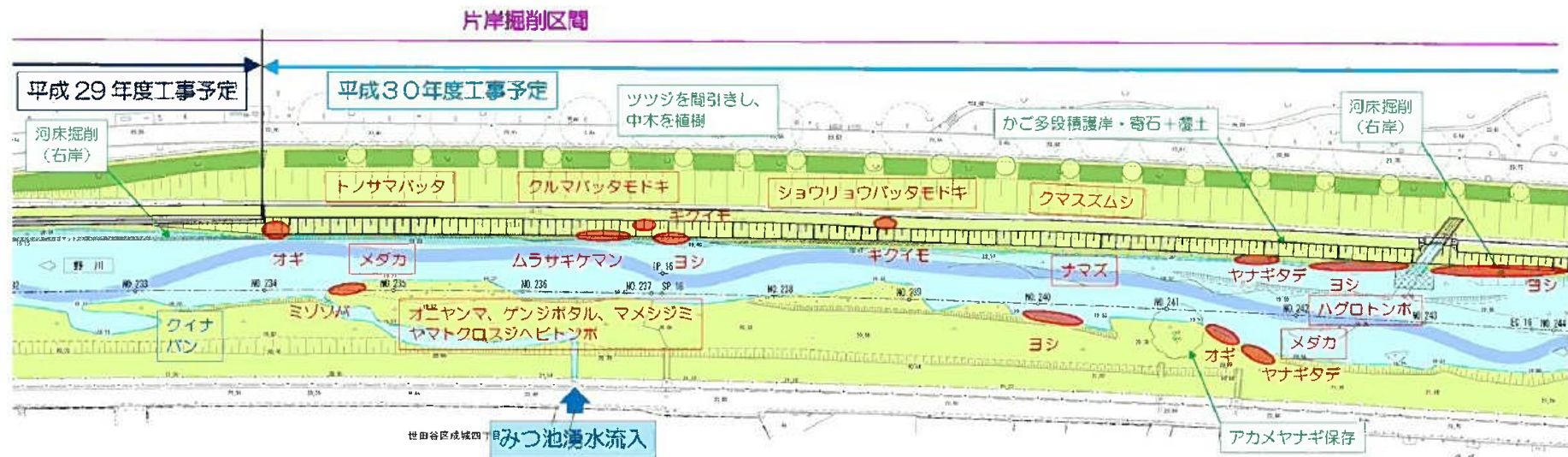
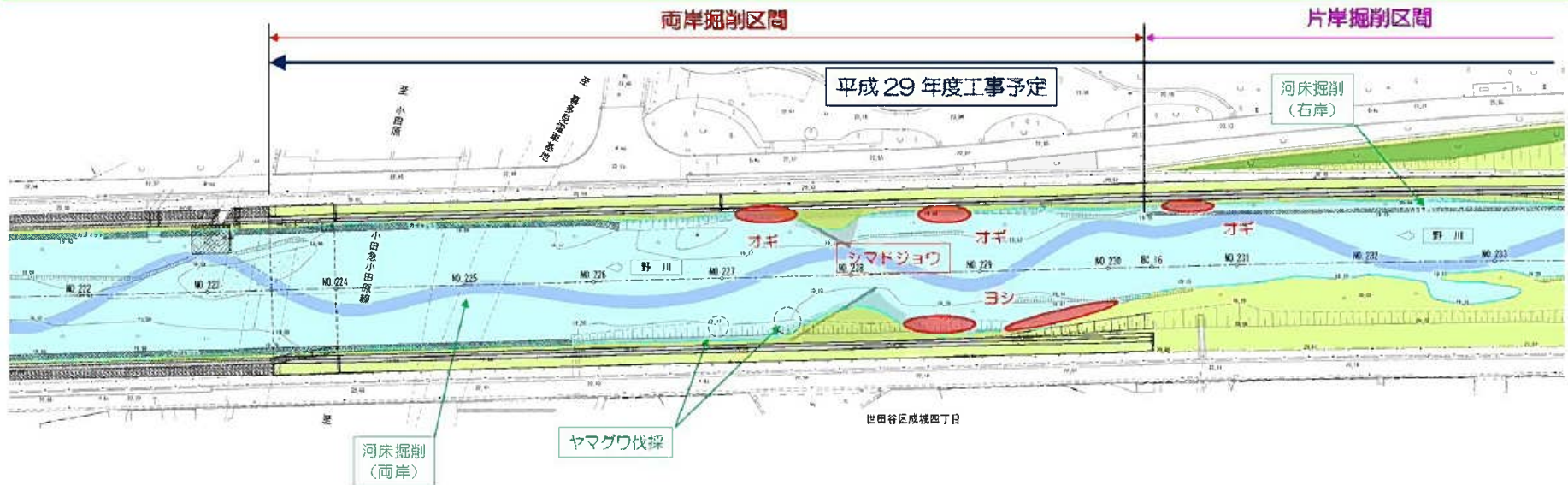
○新たな環境の創出

- ・水辺に親しめる空間を創出
- ・将来に渡り、安全で良好な河川環境を創出



※存置樹木は、洪水時の影響や生育状況等を監視し保全していく

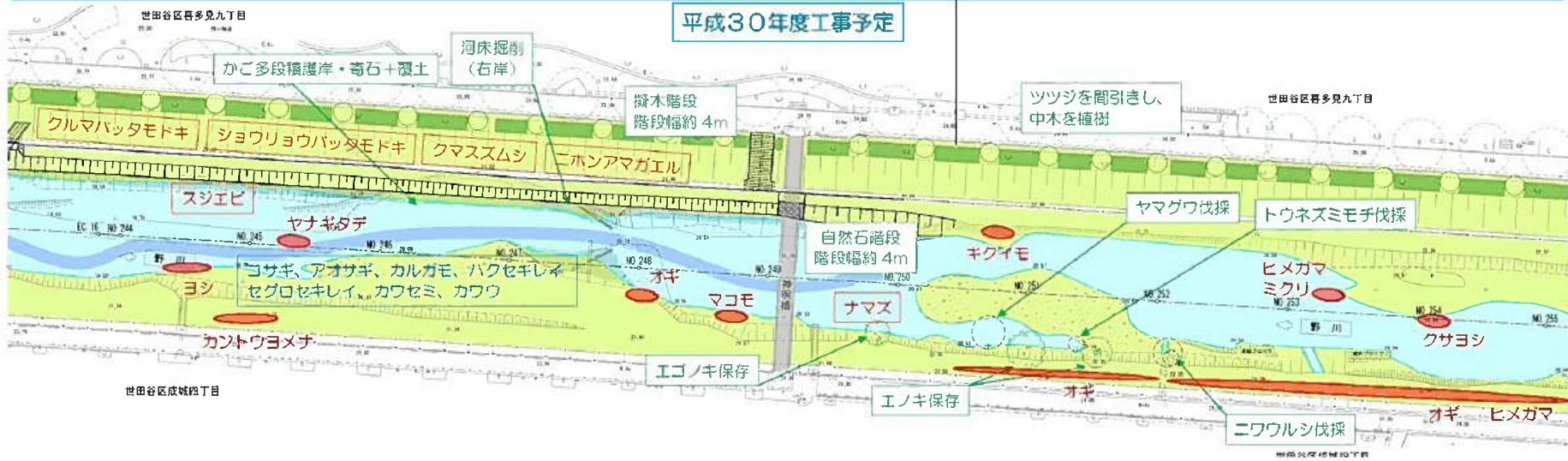
整備内容



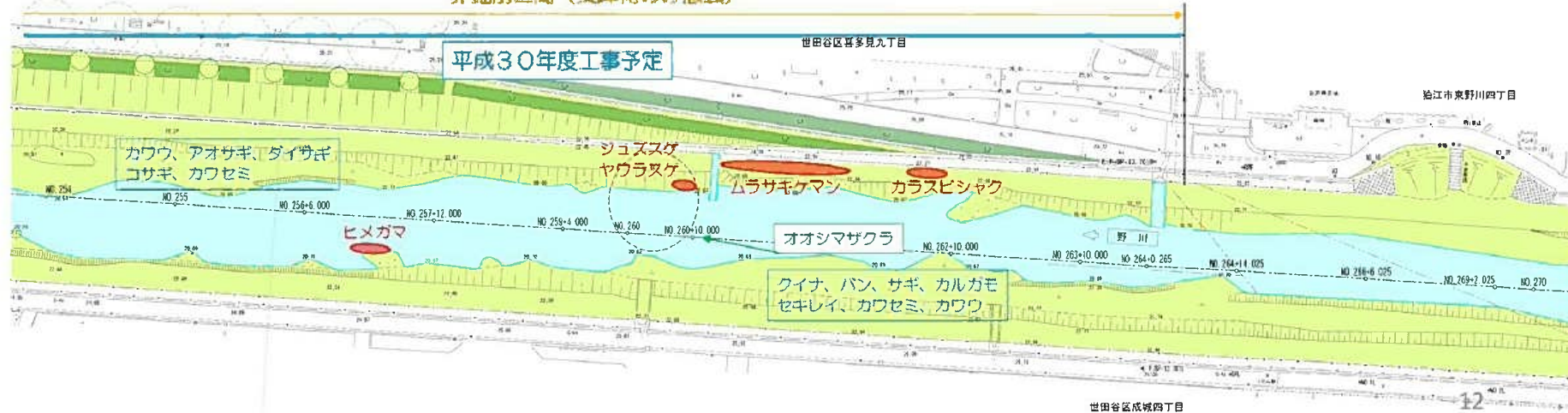
整備内容

片岸掘削区間

非掘削区間（支障物のみ撤去）



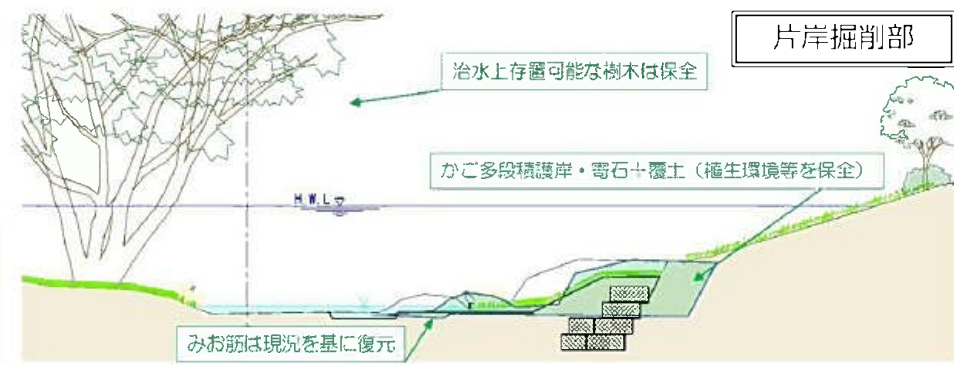
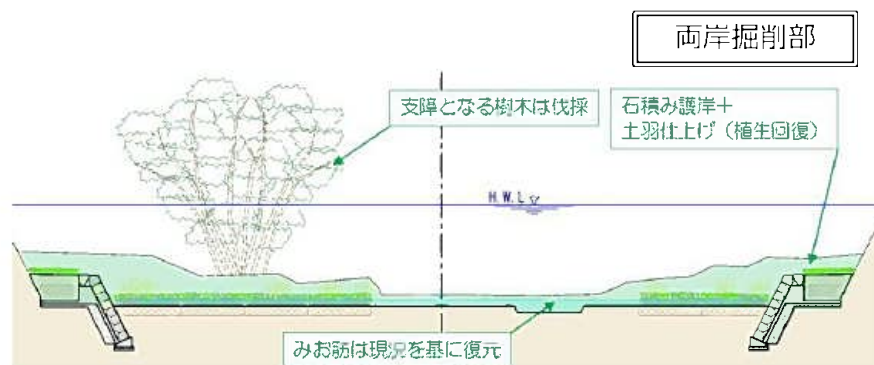
非掘削区間（支障物のみ撤去）



主な整備内容

整備について




- 基本的に右岸側の局所的な掘削（一部両岸掘削）
→左岸側は現況を残す
- 存置可能な樹木は、保全
→倒木流木の危険性を継続的に監視
- 瀬や淵を復元し多様な水辺環境を創出
→水制工（バーブ工）と水生植物の移植
- 右岸側に親水性を高める工夫を実施
→水辺への階段や遊歩道からの視認性確保等



オオシマザクラ周辺部の整備検討について

○オオシマザクラと周辺環境について

- ・河道の中心部にあり、洪水時の影響は大きい
 - ・地域のシンボルツリーであり、周辺環境と一体的に良好な景観を有している
 - ・当該地の良好な生物多様性空間の形成に大きく影響している
- 平成29年度に水理検討など様々な調査を実施し、対応を検討

案1：高水位上植樹案	案2：高水敷植樹案	案3：存置＋高水位以下伐採案
		
<ul style="list-style-type: none"> ・治水上支障のない範囲に新木を植樹 ・植樹後、新規サクラの育成状況を見て既存オオシマザクラを伐採 	<ul style="list-style-type: none"> ・直近下流部の河道内に死水域を設け、高水敷に新木を植樹 ・植樹後、新規サクラの育成状況を見て既存オオシマザクラを伐採 	<ul style="list-style-type: none"> ・治水上支障となる樹冠を伐採し、既存オオシマザクラを存置

今後の予定

- 平成29年9月27日（本日）
小田急線～谷戸橋間の整備に関する説明
 - 平成29年12月頃
整備工事着手（小田急線～みつ池湧水流入箇所付近）
 - 平成30年3月頃
オオシマザクラ周辺部の整備検討に関する中間報告
-
- 平成30年7月頃
神明橋下流～谷戸橋間（オオシマザクラ周辺部含む）の整備に関する説明
 - 平成30年11月頃
整備工事着手（みつ池湧水流入箇所付近～オオシマザクラ周辺部）
【工事期間は概ね11月～3月】